

2023年3月30日

## 地元産業界等と連携した実践的 PBL を含む授業科目等の開講の実施

### 1. 連携している地元産業界等の組織名称

鳥栖市社会福祉協議会

### 2. 当該授業等を実施する学部・学科

保育学科

### 3. 当該授業等を開講する目的

保育学科卒業年度後期に開講している「保育・教職実践演習(幼稚園)」において、PBL 型学修を実施した。保育・教育現場で実際に働く直前の学期において、実践力を高めることを目的として開講している。地域の子育て支援における今日的課題を把握し、課題解決に向けた学習を行うことにより、地域の子育て支援活動の現状や重要性をより深く理解できるものと考えている。

### 4. 当該授業等の具体的な内容

<課題の設定>

鳥栖市社会福祉協議会との連絡会議において、鳥栖市の社会福祉に課題を検討し、PBL 型学修で取り扱う課題を決定した。

課題:妊娠から出産、子育てまで切れ目なく関わるには(切れ目ない支援とは)?

鳥栖市子育て支援センター会議に参加する団体から、以下のような問題点があった。

- ・妊娠中から、子育て支援センターについて知っている人は少ない。
- ・出産後、2～3か月の頃は、日中、子どもと二人っきりで過ごしていることが多く、孤立感を感じやすい。 など

<PBL 型学修の実施(担当:鬼塚教授)>

「保育・教職実践演習(幼稚園)」は半期で30回(1回90分)の授業を行っているが、その内6回を使って、グループワーク(1グループ8名程度の5グループ)の形式で、PBL 型学修を実施した。

### 5. 総評

グループワークとして、鳥栖市における子育て支援体制や現状について調べ学習

を実施した後、今回の課題である「妊娠から出産、子育てまで切れ目なく関わるには（切れ目ない支援とは）？」について PBL 型学修を行った。学生からは以下のような対策案が提出された。

- ・産婦人科と子育て支援センターが連携して、プレママサロンなどの説明会などがあることを紹介する。
- ・家から出ずに交流できるように、オンラインで支援センターの講座やふれ合い遊びなどを開催する。
- ・市役所のモニターで、子育て支援についての動画を流す。
- ・子どもと保護者だけが利用できるコミュニティバスをつくる。
- ・妊娠した方を対象に、スタイ(鳥栖市のマタニティマーク)を配布する機会を年に2～3回作り、妊婦同士の交流の場にする。
- ・父親も相談しやすいように、市役所に男性の子育て員を置く。 など

学生たちは、真剣に取り組み、鳥栖市の子育て支援の現状把握、そこから問題点を見だし、学生なりの対策案を構築していた。しかし、インターネットから把握できる情報量に限りがあることや、問題点を見いだすために必要な知識も不足していること、事業を行うにあたり経費がかかることやその費用をどうやって捻出するのか、費用対効果はどうかなどの経済的視点も不足していることから、実現可能な課題解決案を考案するには、教員も含め、さらなる準備や時間が必要だと痛感した。